

## 学位論文審査の要旨

学位申請者	攪上 久子 人間発達科学専攻2019年度生		論文題目	日本のバリアフリー絵本の展開と課題
審査委員	主査:	浜口 順子 教授	インター ネット 公表	学位論文の全文公表の可否 : 否
	副査:	小玉 亮子 教授		「否」の場合の理由
	副査:	刑部 育子 教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	富士原 紀絵 教授		<input checked="" type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	林 左和子 教授 (静岡文化芸術大学)		<input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (学術)		<input type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている	
(英語名)	(Ph. D. in Child Study)		<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている	
				※本学学位規則に基づく学位論文全文の インターネット公表について

### 学位論文審査・内容の要旨

本論文は、日本のバリアフリー絵本成立の展開過程とその現代的課題を明らかにすることを主目的としている。対象とするバリアフリー絵本は、「障害がある子どもたちのために配慮あるデザインで作られている絵本」および「障害について描かれている絵本」である。手作りや未出版のバリアフリー絵本及び絵本誕生のいきさつや、普及の苦勞、当時抱えていた課題などの記録が散逸・消失しやすいことから、この研究が一つのドキュメントとして資料保存の役割を担うことも目的としている。

第1章「障害がある子どもたちのためのバリアフリー絵本の展開」では、1970年前後以降の手作り絵本および、1979年以降の隆起印刷等の技術による商業出版の展開過程が通史的に叙述されている。第2章では「障害について描かれているバリアフリー絵本の展開」について論じられ、1976年日本初の出版である『はせがわくんきらいや』以降の作品が分析され、特に当事者によって制作された絵本には障害者の現実を社会に提示する作品が多く、障害理解の必要性から近年は説明的な絵本が増加傾向にあることが指摘されている。

第3章では、バリアフリー絵本の展開に特に影響を与えた社会的ファクター：関連条約・法の制定、国際児童図書評議会の障害児図書プロジェクト、図書館の動向、児童書出版社偕成社の活動等に着目し、年代的な関係を整理し考察を行った。第4章、第5章では「バリア」をキーワードに「超えてきたバリア」およびその過程で見出されてきた現代の「新たに出現したバリア」を課題として見出し、「受け手一つなぎ手一作り手」による「共創」の重要性が事例を踏まえて指摘された。最後に本論の課題として、未収集の資料や記録の存在可能性、電子図書を研究対象に含めていないことなどが示された。

日本のバリアフリー絵本の普及に関与した当事者による収集資料・取材の記録、およびバリアフリー絵本成立過程の特徴と意義に関して考察を行った研究である。貴重な事実や史料の整理と記述を行い、「バリア」の意義を肯定的に問い直して展開の意義を考察したことは、ユニークな視点であり、障害児のよりよい成育環境を考える上でユニバーサル・デザイン志向の社会的傾向に一石を投じる可能性をも示唆している。有意義な研究であると認められた。